

2018 年度 教員の自己点検・自己評価報告書

| | | |
|-------------------------------|------------|---------|
| 所属学部 学科 | 職位 | 氏 名 |
| 教育学部 子ども発達学科 | 准教授 | 新實 広記 |
| 最終学歴 | 学 位 | 専 門 分 野 |
| 愛知教育大学大学院教育学研究科 芸術教育専攻修士課程 | 修士 (学術) | 図画工作・造形 |

I 教育活動

○目標・計画

(目標)

小学校教諭・保育者（幼稚園教諭及び保育士）養成課程において、学生が主体的に学ぶ姿、学べる環境を大切にしたい。さらに、卒業後にも教育・保育実践力を自ら育てていくことができる人材を育成することが重要であると考えている。そのためには、地域連携を活用した教育を授業に取り入れ、大学での学びと現場での学びを効果的に構成し学生の実践力を育てていくことが重要であると考えている。私が目標とするものは「実践力」を大学在籍中にどのようにしたら十分に身につけられるかではなく、将来現場で「実践力を自ら主体的になって育てていくことができる人間力」を身につけることである。それは「真に信頼して事を任せうる人格の育成」と一致する目標である。そのためには、連携して頂ける教育現場、保育現場を大学周辺地域に増やし信頼を得ながら学生が主体的に学べる地域連携授業の教育プログラムの整備に今年度も継続して努力し続けることが不可欠である。愛知東邦大学の学生が地域に信頼される学生になり卒業時には人間力をもって現場で活躍できる人材になるように全力でサポートをしていくことが目標である。

(計画)

- ・サービス・ラーニングへの参加を促し、子供との触れ合いや現場教員との関わりから、不安や苦手意識を克服できるようにサポートする。
- ・保育・教育現場における実践例の最新の情報や方法を学会や現場教員と共有し、授業内において学生にも伝えていく。その方法としては、映像や画像の視覚資料を多く準備し、具体的に保育者の姿をイメージできるように心掛ける。
- ・学生の主体的な学びになるように、計画、準備、実施、評価を学生主体で体験的に学べる環境を整える。
- ・学生の体験的な理解を大切にするために、地域向との連携を通して造形ワークショップを行う。

○担当科目（前期・後期）

（前期）図画工作、サービス・ラーニング実習Ⅰ、基礎演習Ⅰ、総合演習Ⅰ、専門演習Ⅰ、専門演習Ⅲ

（後期）保育内容（造形表現）、図画工作科教育法、総合表現技術、サービス・ラーニング実習Ⅱ、基礎演習Ⅱ、総合演習Ⅱ、専門演習Ⅱ、専門演習Ⅳ、卒業研究

○教育方法の実践

昨年度から継続している授業改善の目標として、「授業の事前事後学習」がある。今年度は、図工室を希望者に授業時間外に開放するシステムを整備した。

さらに近隣の幼稚園と連携して、学生が大学で学んだことの実践の場として、保育、教育現場で復習を試みることができる環境も促した。

○作成した教科書・教材

- ・新實広記、西崎有多子、柿原聖治、伊藤龍仁、白井克尚、中島弘道、伊藤数馬、白井克尚、今津孝次郎「サービス・ラーニングハンドブック 第4版」発行 愛知東邦大学 教育学部 2019(平成31)年3月
- ・新實広記、西崎有多子、柿原聖治、伊藤龍仁、白井克尚、中島弘道、伊藤数馬、白井克尚、今津孝次郎「サービス・ラーニングハンドブック 第4版」発行 愛知東邦大学 教育学部 2018(平成30)年3月
- ・新實広記、西崎有多子、柿原聖治、伊藤龍仁、白井克尚、中島弘道、伊藤数馬、白井克尚、今津孝次郎「サービス・ラーニングハンドブック 第3版」発行 愛知東邦大学 教育学部 2017(平成29)年3月
- ・新實広記、西崎有多子、柿原聖治、伊藤龍仁、白井克尚、中島弘道、伊藤数馬、白井克尚、今津孝次郎「サービス・ラーニングハンドブック 第2版」発行 愛知東邦大学 教育学部 2016(平成28)年3月
- ・新實広記、西崎有多子、柿原聖治、伊藤龍仁、白井克尚、今津孝次郎「サービス・ラーニングハンドブック 第1版」発行 愛知東邦大学 教育学部 2015(平成27)年3月

○自己評価

図画工作、造形表現関連科目の学生による授業評価アンケートの結果では、今年度も「この授業の事前事後学習を行ないましたか」は、他の項目に比べ評価は低かった。しかしながら、図工室を開放するシステムを整えたことで、模擬授業の準備をするなど一定の効果が見られ、「学生が主体的に取り組める学習方法」にも繋げることができたようだ。今後も学生が主体的に取り組めるような授業づくりを試み、事前事後学習する学生としない学生の差が出ないように、グループワークなどを取り入れていきたい。

幼稚園と連携した演習活動では、学生中心の計画、準備、実践、評価を行うことができた。学生が保育・教育実践力を身につけるため、今後も学生が主体になって学べる教育環境づくりに力を入れていきたい。

II 研究活動

○研究課題

- ・教育学部におけるサービス・ラーニング
- ・保育現場、小学校における子どもの造形遊び（教材・題材）研究とその意義
- ・美術空間の創造
- ・図画工作科教育法の教科書執筆

○目標・計画

（目標）

今年度も、サービス・ラーニングを活用して、行政や教育現場、企業と地域連携し、さまざまな造形ワークショップ、展覧会を開催する。活動を通して、子ども達やその保護者、教育現場教員に体験的に美術教育の意義を理解していただき、美術教育の意義を伝えていくことを目標とする。また、学生や 幼・保・小・中の教育現場へ授業プログラムとして提供できるように教科書の執筆や現場教員の研修にも講師として取り組む。

（計画）

- ・小学校教諭、保育者養成における表現関係科目の造形に関する教材、題材、技法、造形表現活動の意義についてこれまでの研究成果を論文にまとめる。

- ・現在執筆中の図画工作科教育法の教科書の完成をする。
- ・今年度も、美術作品の展示と鑑賞教室、アーティストトークで学校の校舎を美術館にする「学校美術館」を行う。
- ・日本美術教育学会学会誌編集委員 を継続して行う。
- ・空間と彫刻表現の可能性を探る作品制作と展示を行う。

○2011年4月から2019年3月の研究業績（特許等を含む）

（著書）

- ・『教員と保育士の養成における「サービス・ラーニング」の実践研究』共著第5章 幼稚園・小学校におけるサービス・ラーニング（新實 広記）唯学書房 2019(平成31年)2月
- ・樋口一成 新實広記 他 『幼児造形の基礎 乳幼児の造形表現と造形教材』共著 萌文書林 第3章 幼児の造形教育の教材-材料や技法の基礎理解「版画①」版の種類や用具の使い方 pp. 68-69 第4章 幼児造形教育への実践-大学での実技体験や教育現場での実践例「コラージュ」pp. 130-131、「ゴム版をつくろう」pp. 156-157、「木を切る・打つことからの展開」pp. 166-167、「共同での制作-ものづくり交流の教材実践」pp. 200-201 2018(平成30年)11月
- ・大橋功（著、監修、編集）『美術教育概論 新訂版』共著 日本文教出版 幼児造形表現 カリキュラムマネジメント 2018(平成30年)10月
- ・辻泰秀 新實広記 他 『造形教育の手法 えがく・つくる・みる』共著 萌文書林 第3章 「版画」スチレン版画 pp. 66-67 第5章 「デザイン・映像メディア表現」 モダンテクニックとその活用 pp. 118-119 モダンテクニックを活用した紙芝居づくり pp.120-121 モザイクで表す pp.170-171 2017（平成28年）3月
- ・辻泰秀 新實広記 他 『幼児造形の研究 保育内容「造形表現」』共著 萌文書林 第3章 「幼児の造形教育の教材-材料や技法の基礎理解」 pp. 68-69 第4章 「幼児造形教育への実践 -大学での実技体験や教育現場での実践」 pp. 126-127 pp.148-149 pp.158-159 pp.194-195 2013（平成26年）4月

（学術論文）

- ・古市久子、新實広記、矢内淑子、伊藤数馬、「保育士・教員養成課程の表現科目における共感的要素を使った教授法 III -造形表現の授業の分析を通して -東邦学誌 第46巻第1号 2017(平成29年)6月10日発行
- ・辻泰秀、早矢仕晶子、新實広記、江村和彦「造形教育における美術鑑賞の指導法(2)」-「学校美術館」でのギャラリー・トークの方法-岐阜大学教育学部研究報告 人文科学 第65巻 第2号 2017(平成29年)3月
- ・古市久子、矢内淑子、伊藤数馬、新實広記「保育士・教員養成課程の表現科目における共感的要素を使った教授法 II -授業実践を通して -」東邦学誌 第45巻第2号 2016(平成28年)12月発行
- ・古市久子、矢内淑子、新實広記、伊藤数馬「保育士・教員養成課程の表現科目における共感的要素を使った教授法 I -保育実践教科書を分析する-」東邦学誌 第44巻第2号 2015(平成27年)12月発行
- ・新實広記「保育者養成課程における地域連携を活用した造形表現科目の授業改善-保育実践力の育成を目指した取り組み-」東邦学誌 第43巻1号 2014(平成26年)6月発行
- ・新實広記、藤重育子、西濱由有、矢藤誠慈郎「保育者養成課程における表現関係科目の教育内容に関する研究(2)」東邦学誌 第41巻2号 2012(平成24年)12月発行
- ・辻泰秀・清水英樹・新實広記・林和貴子「地域における『学校美術館』の実践(1) -『学

校美術館』の意義と実践事例―」岐阜大学教育学部研究報告 教育実践研究 第15巻 2012(平成24)年3月

- ・新實広記、藤重育子、西濱由有、矢藤誠慈郎「保育者養成課程における表現関係科目の教育内容に関する研究(1)」東邦学誌 第41巻2号 2012(平成24)年12月発行

(学会発表)

- ・山田唯仁、辻泰秀、新實広記「学校美術館」鑑賞教育プロジェクト2-作品・アーティスト・子どもをつなぐ活動― 美術科教育学会 2017(平成29)年3月28日
- ・新實広記「世界子ども絵画展の可能性」ものづくり教育会議 日本美術教育学会東海地区研究会ポスター発表 2015(平成27)年12月
- ・新實広記「大学・学校・園・美術館との連携による学校美術館と造形ワークショップの実践」2015(平成27)年11月 全国造形教育連盟 日本教育美術連盟 岐阜県造形教育連盟
- ・新實広記 公開授業 II アーティストによる造形ワークショップ 2015(平成27)年11月 全国造形教育連盟 日本教育美術連盟 岐阜県造形教育連盟
- ・新實広記 公開授業 I「学校美術館」アーティストによるギャラリートーク 2015(平成27)年11月 全国造形教育連盟 日本教育美術連盟 岐阜県造形教育連盟
- ・新實広記「ガラス廃棄便を生かした造形教育活動の可能性」口頭発表 ものづくり教育会議 2014(平成26)年11月
- ・「学校美術館」の可能性 ポスター発表 大学美術教育学会 辻泰秀、山本政幸、新實広記 2013(平成25)年10月13日

(その他)

<報告書>

- ・「てのこば-あそび、つくる、育ちの日々-」ものづくり教育会議 vol.3 2018(平成29)年7月
- ・「てのこば-あそび、つくる、育ちの日々-」ものづくり教育会議 vol.2 2017(平成29)年7月27日
- ・今津孝次郎、新實広記、西崎有多子、柿原聖治、伊藤龍仁、白井克尚「教員と保育士の養成における「サービス・ラーニング」の試み」東邦学誌 第44巻第1号 2015(平成27)年6月
- ・新實広記「ガラス廃棄瓶を使用した教材研究―小学生・幼児を対象とした造形ワークショップの取り組み―」ものづくり教育研究 NO.5 ものづくり教育会議 2014(平成26)年3月
- ・新實広記「保育者養成校における地域連携事業―小学生・幼児を対象とした造形ワークショップの取り組み―」ものづくり教育研究 NO.4 ものづくり教育会議 2013(平成25)年3月
- ・新實広記「大人と子どもが共に学ぶワークショップ」ものづくり教育研究 NO.3 ものづくり教育会議 2012(平成24)年3月

<主要作品発表>

- ・新實広記「Vessel」コミッションワーク 野外彫刻 2019年1月 PARK FRONT 香椎照葉 /東区・福岡
- ・新實広記「itoten」グループ展 2018年10月代官山ヒルサイドテラス/代官山・東京
- ・新實広記「第7回 現代ガラス展 in 山陽小野田」土屋良雄審査員賞 2018年7月 山口県立萩美術館 / 山口
- ・新實広記「VESSEL-光のうつわ-」個展 2018年7月 豊田市民芸の森 旧本多静雄亭/ 豊田・愛知
- ・新實広記「光の図形」個展 2018年4月 masayoshi suzuki gallery / 岡崎・愛知
- ・新實広記「十人十色 ガラスの展覧会 Vol.5~伊賀秋色~ イートーテン」 2017年11月 史跡旧崇広堂 /伊賀市

- ・新實広記 「十人十色ガラスの展覧会 ～黒壁秋色～ イートーテン」2017年10月 慶雲館 / 長浜市
- ・新實広記 「新實広記展-名づけられた光-」個展 2017年5月 Cassina ix. DELL' ARTE Art Gallery/青山・東京
- ・新實広記 「BOX展-繋ぐ」日本建築美術工芸協会 優秀賞 2017年4月 建築会館 (東京)
- ・新實広記 「現代ガラスの表現展」グループ企画展 2016(平成28)年12月 大一美術館 (愛知)
- ・新實広記 「第3回街に飛び出す作品展」2016(平成28)年10月 AACA 建築会館 (東京)
- ・新實広記 「とよたルミアール・プロジェクト 新實広記展」個展 企画展 2016(平成28)年8月 豊田市役所東庁舎展示スペース (愛知)
- ・新實広記 「feeling in glass 感じとるかたち」グループ企画展 2016 (平成28)年4月 富山市ガラス美術館 (富山)
- ・新實広記 「街なかミュゼ」中野哲学堂集合住宅コンペ野外彫刻採用 2016(平成28)年1月 AACA 建築会館 (東京)
- ・新實広記 「大手町 JX タワーホトリア広場野外彫刻設置」2015(平成27)年12月 大手町 JX タワー (ホトリア広場)
- ・新實広記 「農村舞台アートプロジェクト」個展 平成26年度文化庁 地域発・文化芸術創造発信イニシアチ 2014(平成26)年8月 (加塩町加塩神社農村舞台) 主催/豊田市・豊田市教育委員会 (財) 豊田市文化振興財団
- ・新實広記 「時の記憶 -美術展-」グループ展 2014(平成26)年2月 知立市文化会館パティオ池鯉鮒
- ・新實広記 「ヒカリノカケラ」個展 2013(平成25)年5月スペース AQUA
- ・新實広記 「Vessel」個展 企画展 2013(平成25)年4月 Masayoshi Suzuki gallery
- ・新實広記 「ARTISTS FILE 04」グループ展 2012(平成24)年8月 Masayoshi Suzuki gallery
- ・新實広記 「足助の町並み芸術さんぽ」企画展 2011(平成23)年11月 主催/AT21 倶楽部・足助観光協会 後援/豊田市教育委員会 協賛/足助商工会・足助交流館(株)三州足助公社 足助中央商店街協同組合
- ・新實広記 「豊田市制 60 周年記念農村舞台アートプロジェクト」個展 2011(平成23)年9月 (細田町細田神社農村舞台) 主催/豊田市・豊田市教育委員会 (財) 豊田市文化振興財団
- ・新實広記 「SELECTION:01」グループ展 2011(平成23)年9月 Masayoshi Suzuki gallery
- ・新實広記 「新實広記・畑中篤 二人展」瀬戸新世紀工芸館企画展 2011(平成23)年4月 主催 瀬戸市文化振興財団、瀬戸新世紀工芸館、瀬戸市

○科学研究費補助金等への申請状況、交付状況 (学内外)

- ・科学研究費助成事業研究分担者 基盤研究 (B) (一般) 申請
研究代表者 名古屋経済大学短期大学部 准教授 藤田雅也
研究課題名『みること』に重点を置いた保育・幼児教育のプログラム開発と実践的研究
研究期間 平成29年度～平成30年度) 不採択

○所属学会

日本美術教育学会、大学美術教育学会、日本保育学会、日本建築美術工芸協会、全国大学造形美術教育教員養成協議会、ものづくり教育会議

○自己評価

保育者養成における子どもの造形表現指導法では、これまでの研究成果を『幼児造形の基礎 乳幼児の造形表現と造形教材』共著 萌文書林 に執筆してまとめることができた。さらに幼稚園、

保育園、子ども園におけるカリキュラムマネジメントの重要性について、『美術教育概論 新訂版』共著 日本文教出版に執筆してまとめることもできた。

また、2014年度から取り組んできた「サービス・ラーニング」についても『教員と保育士の養成における「サービス・ラーニング」の実践研究』共著 唯学書房にまとめることができた。

小学校教諭の養成における図画工作科目の指導法を、これまでの研究成果を生かして『明日の小学校教諭を目指して子どもの資質・能力を育む 図画工作科教育法』（萌文書林）で現在共著執筆中である。発行は、2019年夏を予定としている。また、毎年継続的に行っている「スクールミュージアム」の実施を今年度も行うことができ、現場小学校教諭と鑑賞学習の研究会も開催して美術の力、美術の鑑賞教育の可能性を考察することができた。

Ⅲ 大学運営

○目標・計画

（目標）

配属された教務委員会の業務を的確に迅速に行って円滑な運営に努めることはもとより、問題解決のための新たな可能性を常に考え、イノベーションを試みる。

（計画）

常に学生の教育効果を考え学生が主体的に学べる環境をつくることに努力する。新たな提案・改善を行う時は一時的な解決だけではなく「持続できる」仕組みを考え、組織的に他の委員会、教職員と連携しながら、より良い教育環境を整えていく工夫を凝らす努力を続ける。

○学内委員等

教務委員会委員、幼小教職委員会委員、保育士養成課程委員会委員、教職課程再課程認定委員会委員

○自己評価

再過程認定運営委員会ではカリキュラムの見直しや、再過程認定に必要な書類の準備、的確に議論できるように、教員への説明、協力を依頼してきたが、今年度無事に認可されることができた。教務委員会においては、教育学部初年度から携わっており、来年度からの新カリキュラムと旧カリキュラムに関する問題点や課題を教職員からの意見も交え整理しカリキュラムの改善、履修登録の説明の工夫、履修モデルの改善などを行うことができた。

大学運営においては、与えられた業務を的確に迅速に行って、今年度も円滑な運営に努めることができた。今後も学生と向き合いながら、教員と職員との連携を大切にして、情報や課題を共有しながら学生が主体的に学ぶことのできる環境を積極的に工夫していきたい。

Ⅳ 社会貢献

○目標・計画

（目標）

地域や教育現場との連携を大切にし、自らの専門知識を地域に還元し、教育現場や社会における多様な課題に積極的に取り組む。

（計画）

学内においては、地域と連携した教育を通して積極的に地域の教育活動に貢献する。学外においては、学会活動や教育現場、行政、企業などと協力し、子どもの造形ワークショップ、展覧会の企画、運営を行う。また、これらの研究成果を社会に発信し、愛知東邦大学と地域との連携をさらに深める。

○学会活動等

- ・ものづくり教育会議 会員（2012～現在） 会長（2018～）
- ・日本美術教育学会 会員（2010～現在）大会編集委員（2010～）
- ・大学美術教育学会 会員（2010～現在）
- ・日本保育学会 会員（2012～現在）
- ・全国大学造形美術教育教員養成協議会（2015～現在）事務局（2016～）

○地域連携・社会貢献等

- ・教員免許状更新講習 選択領域6時間「幼児造形・図画工作研究」講師 2018(平成30)年8月
- ・「弥富市立十四山東部小学校学校美術館プロジェクト」作品展示・鑑賞教室・アーティストトーク 講師 2018(平成30)年12月 弥富市立十四山東部小学校
- ・愛知県私立幼稚園連盟2年目教員研修会 講師 2018(平成30)年6月

○自己評価

今年度は、これまで行ってきた造形表現指導の研究成果を愛知県私立幼稚園連盟の2年目研修会の講師として教育現場に伝えることができた。地域連携では、近隣の幼稚園と連携して造形ワークショップを行ったり、小学校での鑑賞学習などを通して、今後の個人の課題、保育現場の課題などを知ることができた。たくさんいただくことができた。毎年、継続的に教育現場から造形ワークショップの依頼があることから、地域に造形活動の意義や信頼を得られていると評価したい。

今後も地域の保育、教育現場の多様な課題と向き合い、造形表現活動の意義とその可能性を研究していきたい。

V その他の特記事項（学外研究、受賞歴、国際学術交流、自己研鑽等）

- ・平成30年度とよしん育英財団 教育文化奨励賞 2019(平成31)年3月28日（公財）とよしん育英財団
- ・「第7回 現代ガラス展 in 山陽小野田」土屋良雄審査員賞 2018年7月

VI 総括

今年度は、これまでの研究成果を共著で著書3冊にまとめられた。現在は、図画工作教育法の研究成果を教科書に共著でまとめ、来年度春の完成に向けて執筆を開始できた。今後も美術教育の理論及び実践の研究を深めていき、実践事例に基づいた指導案や図版、を実践集としてまとめ、教育・保育の現場に頒布することで、その知見と開発した方法論を提供していきたい。

また、教育活動においては、事前事後学習に関して学生が主体的に取り組める教授方法、環境整備を工夫し実行することができた。その結果、授業時間外の図画工作科目における学生の自主的な学習時間も増えた。しかしながら、授業評価アンケートの結果からは、今年度も「事前事後学習の改善」に取り組んだ学生とそうでない学生の差が大きく出てしまった。今後は幼稚園や小学校と連携して「サービス・ラーニング」実習を事前事後学習に組み合わせる工夫をしていきたい。

そして、研究活動と合わせて各委員会で与えられた業務を迅速かつ的確に行い、様々な改善や提案をしながら、共に働く仲間、共に学ぶ学生に「感謝」して大学教育全体の発展へとつなげていくことを目標としていく。